

教科(科目)	地理歴史（地理総合）	単位数	2	学年(コース)	1 学年
使用教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	帝国書院『高等学校 新地理総合ノート』				

### 1 学習目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>
---

### 2 指導の重点

<p>持続可能な社会づくりを目指し、グローバルな視座から国際理解や国際協力のあり方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察し、地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目です。そのために、作業的で具体的な体験をともなう学習をより一層重視して、さまざまな諸課題を日常生活と関連づけて取り扱い、地理的な技能を身に付けるとともに、地理学習の有用性に気づき、学習意欲を高めることに配慮し、主に主題的な方法を基にして学習します。</p>
--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養おうとしている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。

### 4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②授業態度 ③発問に対する答え ④プリント提出 ⑤ノート提出 などで評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②授業態度 ③発問に対する答え ④プリント提出 ⑤ノート提出 などで評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②授業態度 ③発問に対する答え ④プリント提出 ⑤ノート提出 などで評価します。
評価方法	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。  内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 5 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法	
1 学期	第1部 地図でとらえる現代世界			授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出	
	第1章 地図と地理情報システム				
	1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類	地球上の位置の違いが生活に与える影響。時差と生活の結び付き。地図や地理情報システムが、生活にどのように役立つか。	5		
	第2章 結び付きを深める現代世界				
	1節 現代世界の国家と領域 2節 グローバル化する世界	国家の領域や国境の定まり方。日本の位置や領域の特徴。世界の国々の貿易や交通、通信、観光などによる結び付き方。	4		
	1学期中間考査		1		定期考査
	第2部 国際理解と国際協力				授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出
	第1章 生活文化の多様性と国際理解				
	序説 生活文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活	世界各地の生活文化の考察の方法。多様な地形と人々の関わり方。世界各地での人々の生活の仕方。	5		
	2節 世界の気候と人々の生活	人々の生活と気候要素の関わり合い。世界各地での人々の生活。	6		
1学期期末考査		1	定期考査		
2 学期	3節 世界の言語・宗教と人々の生活	言語や宗教が、人々の生活に与える影響。	4	授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出	
	4節 歴史的背景と人々の生活	歴史的な背景が、人々の生活文化に与える影響。	4		
	5節 世界の産業と人々の生活	産業の発展が、人々の生活に与える影響。また、産業のグローバル化で、人々の生活におきた変化。	5		
	2学期中間考査		1		定期考査
	第2章 地球的課題と国際協力			授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出	
	1節 複雑に絡み合う地球的課題	地球的課題の背景にあるもの。その解決に向けてできること。	1		
	2節 地球環境問題	世界の地球環境問題と、それへの取り組み。	3		
	3節 資源・エネルギー問題	世界の資源やエネルギーの利用における課題。持続可能なエネルギーの利用方法とは何か。	3		
	4節 人口問題	世界の国や地域における人口問題と、その対策について。	3		
	5節 食料問題	食料需給の偏りが生じるのはなぜか。食料問題を解決するためには、どのような取り組みが必要か。	3		
6節 都市・居住問題	世界には、国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているのか。	2			
2学期期末考査		1	定期考査		
3 学期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち			授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出	
	第1章 自然環境と防災				
	1節 日本の自然環境	日本の地形や気候には、どのような特徴があるか。	2		
	2節 地震・津波と防災	地震や津波の被害。地震や津波の発生に備えての取り組み。	3		
	3節 火山災害と防災	火山のもたらす恵みや災害。火山災害に備えての取り組み。	3		
	4節 気象災害と防災	気象災害の種類と被害。気象災害に備えての取り組み。	3		
	5節 自然災害への備え	自然災害への日頃の備え。災害発生時の危機管理体制。	3		
	第2章 生活圏の調査と地域の展望				
	1節 生活圏の調査と地域の展望	私たちの生活圏が抱える課題を探究するための方法と、課題解決のための展望。	3		
学年末考査		1	定期考査		

計 70 時間 (50分授業)

## 6 課題・提出物等

プリント、ノートなどを評価します。(①め切りを守っている、②書いていない箇所がない、③ていねいな字で書かれている、などにも注意して下さい。)

## 7 授業担当者からの一言

地理総合では、①地図の見方や現代世界のとらえ方、②世界に住む人々の生活、③地球的課題、④自然災害と防災などを学びます。地図の読図や統計資料の見方に早めに慣れてください。作業学習などをまじえて、学習を進めていきますので、積極的に取り組んでください。

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2	学年(コース)	2 学年
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材等	山川出版社『歴史総合 近代から現代へノート』 東京法令出版『問からはじまる歴史総合』				

### 1 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

### 2 指導の重点

<p>基礎学力の定着および発展的技能の修得が求められることから、指導を行う際には、当該の時代や地域の歴史的な流れを概観した後、ワークシートへの記入等による史・資料の読み取りや解釈の演習を基に、上記歴史的な事象の背景や意義などについて考察し、他者の考えも踏まえながら自らの考えをまとめ、表現する力を養うことを目指します。</p> <p>更に、その歴史的な事象が現代の社会的課題にどのようにつながっているかを考察し、その課題解決に向けた主体的態度を養うことを目指します。</p>
---

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>	<p>よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を身に付けており、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本国民としての自覚を持ち、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて理解しようとしている。</p> <p>更に、歴史的な事象が現代の社会的課題にどのようにつながっているかを考察し、その課題解決に向けた主体的態度を身に付けている。</p>

### 4 評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>以上の観点を踏まえ、 ①定期考査・小テスト ②授業態度 ③発問に対する答え ④課題提出 ⑤授業プリント・ワークシート提出 などで評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、 ①定期考査・小テスト ②授業態度 ③発問に対する答え ④課題提出 ⑤授業プリント・ワークシート提出 などで評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、 ①定期考査・小テスト ②授業態度 ③発問に対する答え ④課題提出 ⑤授業プリント・ワークシート提出 などで評価します。</p>
<p>評価方法 内容のまとめごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。</p> <p>内容のまとめごとの評価規準は授業で説明します。</p>		

## 5 学習計画

学期	単元名 <教材名>	学習活動(指導内容) <主な領域>	時間	評価方法
1 学期	第I部 近代化と私たち			定期考査・小テスト 授業態度 発問に対する答え
	第1章 結びつく世界			課題提出 授業プリント・ワークシート提出
	1 アジア諸地域の繁栄と日本 2 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	①16世紀にアジア地域に成立した諸国家・政権について概観し、その中で江戸幕府がそれらの国々や、また琉球やイスなどのように関わっていたかを理解する。 ②この時期にアジア地域に進出してきたヨーロッパ諸国の国内状況や動向について理解する。	4	
	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立			
	1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 アメリカ独立革命とフランス革命 3 19世紀前半のヨーロッパ 4 19世紀後半のヨーロッパ 5 19世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国	①産業革命の世界的な影響について理解する。 ②アメリカ独立革命とフランス革命の理念やその影響について理解する。 ③ウィーン体制の特徴と国民国家の成立過程を、ドイツ・イタリアの統一過程を通じて理解する。またこの時代の国際的諸運動の進展や文化・科学と社会の変容について、具体的な例を挙げながら考察する。 ④東方問題の概要について理解し、イギリスによるエジプト進出の全体像について理解する。また、ヨーロッパ列強による東南アジア植民地化の過程について理解する。 ⑤欧米諸国による中国の植民地化の概要について理解し、それに対する日本の開国の特徴について考察する。	5	
	1学期中間考査		1	定期考査
	第3章 明治維新と日本の立憲体制			
	1 明治維新と諸改革 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立憲体制	①大政奉還から戊辰戦争の展開を理解し、明治新政府が行った諸改革の歴史的意義を理解する。 ②当時の東アジア国際関係を踏まえて、明治政府がヨーロッパ列強国との外交関係をどのように構築し、日本の領土をどのように画定していったかについて理解する。 ③自由民権運動から大日本帝国憲法の成立までの経過を概観し、日本が近代国家へと成長していった過程について理解する。	4	定期考査・小テスト 授業態度 発問に対する答え 課題提出 授業プリント・ワークシート提出
	第4章 帝国主義の展開とアジア			
	1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の展開 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響	①②日清戦争前後の経過と、それが日本の国際的地位の上昇にどのように関わったかを考察するとともに、日本の産業発展への影響についても理解する。 ③④帝国主義の実現と欧米列強による世界分割の課程を概観し、その中において日本が如何にその勢力と関わっていったかについて理解する。 ⑤日露戦争前後の具体的な経過を概観しながら、日本が中国大陸への進出を進めていった課程を理解し、それがアジア諸民族の欧米からの独立運動へとつながった課程について考察する。	7	
1学期期末考査		1	定期考査	
2 学期	第II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち			定期考査・小テスト 授業態度 発問に対する答え
	第5章 第一次世界大戦と大衆社会			課題提出 授業プリント・ワークシート提出
	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	①第一次世界大戦やロシア革命の具体的な経過とその中における日本の関わりについて概観し、日本の国際的孤立化の実像について理解する。 ②ヴェルサイユ体制と国際連盟の実現について理解し、それが第二次世界大戦を孕み得た背景について考察する。 ③インド・アジア諸民族の独立運動について整理し、その諸国家建設の動きを理解する。 ④資本主義や民主主義の発展の過程を概観し、日本の大衆文化と消費文化が人々の生活に及ぼした影響について理解する。	13	
	2学期中間考査		1	定期考査
	第6章 経済危機と第二次世界大戦			
	1 世界恐慌の発生と各国の対応 2 ファシズムの台頭 3 日本の恐慌と満州事変 4 日中戦争と国内外の動き 5 第二次世界大戦と太平洋戦争	①②世界恐慌の世界的影響と各国の対応について概観し、その中からファシズムが台頭し、やがてそれが第二次世界大戦へとつながる新たな対立軸の形成につながった経過について理解する。 ③世界恐慌が日本に及ぼした影響と、それが日本の大陸進出を加速した経過について理解する。 ④⑤日中戦争前後の政治状況が日本国内において軍部の台頭と国際的孤立をさらに招き、やがて太平洋戦争へとつながっていった過程について理解する。また日本国内における国民生活や、動員されたアジアの人々の状況について考察する。	8	定期考査・小テスト 授業態度 発問に対する答え 課題提出 授業プリント・ワークシート提出
	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革			
	1 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2 アジア諸地域の独立 3 占領下の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立	①東西冷戦の構造を理解し、戦後秩序の実像について考察する。 ②アジア諸地域の独立と朝鮮戦争の具体的な経過について概観し、その冷戦との関わりについて理解する。 ③④戦後日本の民主化の進展と独立の過程及び、当時の国際情勢を概観し、それが日本の再軍備にどのように関わったかについて考察する。	7	
	2学期期末考査		1	定期考査
	3 学期	第III部 グローバル化と私たち		
第8章 冷戦と世界経済				課題提出 授業プリント・ワークシート提出
1 集団防衛体制と核開発 2 米ソ両大国と平和共存 3 西ヨーロッパの経済復興 4 第三世界の連携と試練 5 55年体制の成立 6 日本の高度経済成長 7 核戦争の恐怖から軍縮へ 8 冷戦構造のゆらぎ 9 世界経済の転換 10 アジア諸地域の経済発展と市場開放		①②東西冷戦下における両陣営の軍事同盟構築と核開発競争の経過について概観し、「雪解け」の時期を挟んで、再び軍拡競争へと向かう過程について理解する。 ③西ヨーロッパ諸国の経済復興とヨーロッパ統合への意識が芽生え始める背景について理解する。 ④冷戦下におけるアジア・アフリカ諸国の政治的・軍事的困難について理解する。 ⑤⑥冷戦の日本国内政治への影響について理解し、いわゆる55年体制がどのような役割を果たしていたのかについて考察する。また、日本の高度経済成長について概観し、日本の経済発展が日本の国際的地位の上昇にどのように関係していったかについて考察する。 ⑦⑧キューバ危機などの事件を取り上げながら、当時の各国の指導者たちがどのように核軍縮や冷戦の終結へと向かっていったかについて理解する。 ⑨⑩石油危機を背景とした経済危機が、各国のエネルギー政策や経済構造の転換を促していった過程について理解し、それが経済のグローバル化を促進し、アジア諸地域の経済発展にどのようにつながっていったかについて考察する。	11	
第9章 グローバル化する世界				
1 冷戦の終結と国際情勢 2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 4 地域紛争の激化 5 国際社会のなかの日本		①②冷戦終結とソ連崩壊の過程を概観し、それが世界と日本の政治状況にどのような影響を与えたのかを考察する。 ③④⑤冷戦終結の結果、世界が多極化していく様子を理解し、地域紛争が多発化する世界における日本の果たすべき役割などについて考察する。	4	
第10章 現代の課題				
1 現代世界の諸課題 2 現代日本の諸課題		①世界のグローバル化もたらす諸問題や人権問題・民族問題・自然環境問題などの問題への対応についての将来的な展望を考察し理解する。 ②日本の人口減少・エネルギー問題・国際的諸課題などについて、どのように取り組むべきかを考察し理解する。	2	
学年末考査			1	定期考査

計 70 時間 (50分授業)

## 6 課題・提出物等

プリント、ノートなどを評価します。(①メモ切りを守っている、②書いていない箇所がない、③いいねいな字で書かれている、などにも注意して下さい。)

## 7 授業担当者からの一言

歴史総合では「世界の中の日本」を常に意識しながら授業を展開します。また①資料・史料の読解、②比較・考察、③論理的な思考・議論などを通じて歴史の実相を理解することを目的としますので、授業の前に教科書を読んで、予習をしておくとうまいでしょう。

教科(科目)	地理歴史（地理探究）	単位数	3	学年(コース)	2学年（教養コース）
使用教科書	帝国書院『新詳地理探究』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	帝国書院『新詳地理探究 演習ノート』				

### 1 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

### 2 指導の重点

「地理探究」は、「地理総合」の学習によって身につけた資質・能力を前提に、系統地理的な考察、地誌的な考察によって習得した知識や概念を活用して、現代世界に求められるこれからの持続可能な日本の国土像を探究します。

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深めようとしている。

### 4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②授業態度 ③発問に対する答え ④プリント提出 ⑤ノート提出 などで評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②授業態度 ③発問に対する答え ④プリント提出 ⑤ノート提出 などで評価します。	以上の観点を踏まえ、 ①定期考査 ②授業態度 ③発問に対する答え ④プリント提出 ⑤ノート提出 などで評価します。
評価方法	内容のまとめりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。  内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

## 令和5年度シラバス（地理歴史）

### 5 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法	
1 学期	第1部 現代世界の系統地理的考察			授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出	
	第1章 自然環境				
	1節 地形	地形の特徴や成因・地形と人間活動との関わり	5		
	2節 気候	気候の違いの要因・気候の人々の生活に与える影響	5		
	3節 日本の自然環境	日本の自然環境の特徴と、その特徴と自然災害との関係	1		
	4節 地球環境問題	地球と人類が共存できる、持続可能な社会を作るための取り組み	3		
	1学期中間考査		1		定期考査
	第2章 資源と産業				
	1節 農林水産業	農林水産業の分布や発達における傾向や規則性	4		
	2節 食糧問題	飽食と飢餓がみられる地域の分布とその原因	2		
	3節 エネルギー・鉱産資源	エネルギー・鉱産資源の分布と利用。生産と消費の不均衡を是正する方策	2		
	4節 資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するための考え方	2		
	5節 工業	世界の工業の発展の推移。現在中心の工業分野と工業地域と今後の変化	5		
	6節 第3次産業	第3次産業の現状	2		
1学期期末考査		1	定期考査		
2 学期	第3章 交通・通信と観光、貿易			授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出	
	1節 交通・通信	交通網や通信網の発達における、傾向・地域性・地域間格差の理由	2		
	2節 観光	観光における、特徴・利点・課題	2		
	3節 貿易と経済圏	世界の貿易において、地域性や地域間格差が現れる理由	2		
	第4章 人口、村落・都市				
	1節 人口	世界各地の人口の分布や年齢別構成・移動にみられる特徴	2		
	2節 人口問題	先進国と発展途上国における、出生率と高齢化の進行の違い	2		
	3節 村落と都市	村落や都市の立地や形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性	2		
	4節 都市・居住問題	世界の都市と日本の都市の課題と、解決するための取り組み	2		
	第5章 生活文化、民族・宗教				
	1節 衣食住	伝統的な衣食住の文化と、この文化と世界的な画一化の動きとの関係	2		
	2節 民族・宗教と民族問題	民族や宗教の独自性と、その独自性と民族問題との関わり	2		
	3節 国家の領域と領土問題	領域が定められたり、変更されたりすることなどでおこる問題	2		
	2学期中間考査		1		定期考査
第2部 現代世界の地誌的考察			授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出		
第2章 現代世界の諸地域					
1節 中国	経済発展が著しく、世界経済への影響も大きくなっている中国	5			
2節 韓国	日本と地理的な距離が近く、急速な経済成長を遂げている韓国	3			
3節 ASEAN諸国	古来農業が盛んで、近年急速に工業化が進んでいるASEAN諸国	4			
4節 インド	急成長する一方、農村・社会の変化、経済格差など課題を抱えるインド	4			
5節 西アジアと中央アジア	西アジアと中央アジアの共通性と、それぞれの地域の特异性	4			
6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ	北アフリカとサハラ以南のアフリカの共通性と、それぞれの地域の特异性	3			
2学期期末考査		1		定期考査	
3 学期	7節 EU諸国	二度の世界大戦を機に、政治・経済の統合を進めているEU		5	授業態度 発問に対する答え プリント提出 ノート提出
	8節 ロシア	ロシアの国家体制の変化に着目した工業や農業の特徴		3	
	9節 アメリカ合衆国	移民国家としての多様性を持ち、それが原動力であるアメリカ		5	
	10節 ラテンアメリカ	かつてヨーロッパの植民地であったことによる、生活や産業への影響		4	
	11節 オーストラリアとニュージーランド	オーストラリアとニュージーランドの共通性と、それぞれの地域の特异性		3	
	第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像				
	第1章 持続可能な日本の国土像の探求				
	1節 将来の国土の在り方	日本の強みを生かした、持続可能な社会を構築していくための取り組み	2		
	2節 持続可能な日本の国土像の探求	持続可能な社会を目指した、日本の国土の在り方	4		
	学年末考査		1	定期考査	

計 105 時間 (50分授業)

### 6 課題・提出物等

プリント、ノートなどを評価します。(①べ切りを守っている、②書いていない箇所がない、③ていねいな字で書かれている、などにも注意して下さい。)

### 7 授業担当者からの一言

地理探求では、第1部で、系統地理的な学習を行い、第2部で、地誌的な学習を進めます。そして第3部では、習得した知識や概念を活用して、現代世界における日本の国土像を考えていきます。作業学習などをまじえて、学習を進めていくので、積極的に取り組んでください。